

ご挨拶

本来ならば年頭のご挨拶を申しあげるところでしたが、日本早期認知症学会は 2 月 28 日に臨時理事会・代議員会・総会を開催して、新しい理事長を選出することになっていましたので、自粛させて頂きました。

此の度理事長に再選されましたので、年頭のご挨拶もかねて抱負を申しあげます。

近年の認知症の研究は目覚ましい発展をとげ、新しい認知症の診断方法や治療方法の提案が次々に出てきています。一方、厚生労働省のオレンジプランに示されている認知症の検診方法や予防方法、認知症患者ケアにおける医療介護連携、認知症患者を取り巻く社会資源ネットワークの在り方など、従来手つかずにあった問題も近年注目されるようになってきました。まさに、認知症の予防から早期認知症を対象とする本学会が、認知症の研究に貢献せねばならない時代がきたのだと言えるのではないのでしょうか。

私は生体医工学 (BME) の分野を 36 年間歩んで参り、日本生体医工学会の専門別研究会として **BME on Dementia** 研究会を創設し研究会長も務めております。2010 年より本学会の理事長を拝命し、現在 3 期目に入ります。その間、閉鎖的な研究活動や運営方法に関して改革を断行し、門戸の開かれた学会に脱皮することに注力して参りました。振り返ると、多くの理事の皆様のご支援を頂いて初めてここまでやってこれました。改めて御礼を申し上げます。今回の選挙制度改革もその一貫です。現在は早期認知症のテキストブックとなる教科書を学会として出版することに注力していますが、この本が皆様のご研究や実践の道標になってくれると期待しております。順天堂大学の新井平伊先生の総合監修のもとで進めていますが、出来るだけ早く皆様に提供したいと企画担当の金山重明副理事長とともに鋭意すすめております。

日本早期認知症学会の特徴の一つは、認知症に係わる医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、工学技術者、に加えて最近では鍼灸師、歯科医師、自治体高齢者福祉関係者なども加わり、専門分野を超えた議論ができることです。認知症ケアの複合的ネットワークが生まれる場として発展することを祈念しております。

平成 27 年 3 月 吉日

日本早期認知症学会

理事長 志村 孚城